

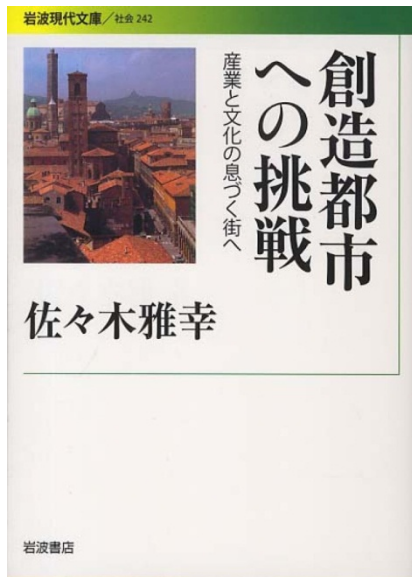
包摂型創造都市・大阪に向けて

同志社大学 佐々木雅幸



「創造都市」とは何か？

■市民一人一人が創造的に、 働き、暮らし、活動する都市



「創造都市」とは「市民の創造活動の自由な発揮に基づいて、文化と産業における創造性に富み、同時に、脱大量生産の柔軟な都市経済システムを備え、グローバルな環境問題や、あるいはローカルな地域社会の課題に対して、創造的問題解決を行えるような『創造の場』に富んだ都市である」

佐々木雅幸著『創造都市への挑戦』岩波現代文庫、2012年

現代都市と文化芸術 マンフォード

都市の本質的機能とは(L. Mumford)

文化の貯蔵、伝播と交流、創造的付加の機能

「都市は芸術を育てるとともに芸術であり、都市は劇場をつくるとともに、劇場である。人間のより目的的活動が人間や出来事や集団と争い協力しながらさらに意義深い頂きへと形成され、実現されるのは、都市において、劇場としての都市においてである。」

「収入と使えるエネルギーの大部分は、芸術家、科学者、建築家と技術者、教師と医者、歌手、音楽家、俳優を支援するために使われる。このような変化は、前世紀に着実に進行し、その傾向は統計的にも証明できる。しかし、その意義は一般的にはまだよく理解されていない。」 マンフォード 『都市の文化』

創造都市：文化による都市再生

第1に、マルチメディアや映像・映画や音楽、劇場などの創造産業が製造業に代わってダイナミックな成長性や雇用面での効果を示す。

第2に、芸術文化が都市住民に対して問題解決に向けた創造的アイデアを刺激するなど多面的にインパクトを与える。

第3に、文化遺産と文化的伝統が人々に都市の歴史や記憶を呼び覚まし、グローバルゼーションの中にあっても都市のアイデンティティを確固たるものとし、未来への洞察力を高める素地を耕す。

創造とは単に新しい発明の連続であるのみならず、適切な「過去との対話」によって成し遂げられるのであり、「伝統と創造」は相互に影響し合うプロセスである。

第4に、地球環境との調和をはかる「維持可能な都市」を創造するために文化が果たす役割も期待される。



ユネスコ 文化多様性条約と創造都市ネットワークの提唱

ユネスコは2001年に「文化多様性に関する世界宣言」を採択し、2005年には「文化多様性条約」を採択した。

有形無形の世界遺産の保存のための活動とともに、現に生きている文化産業の多様な発展を都市レベルからすすめる目的で2004年、ユネスコは文化多様性に向けた**創造都市ネットワーク**という都市間の戦略的な連携のためのプログラムを新たに加えることとした。

7分野、現在69都市：エディンバラ（文学）、ボローニャ（音楽）、ベルリン（デザイン）、モントリオール（デザイン）、ポパヤン（食文化）、ブエノスアイレス（デザイン）、サンタフェ（フォークアート）、セビリア（音楽）、アスワン（フォークアート）、グラスゴー（音楽）、リヨン（メディアアーツ）、メルボルン（文学）、神戸（デザイン）、名古屋（デザイン）、金沢（クラフト）、上海（デザイン）、ソウル（デザイン）、利川（クラフト）
全州（食文化）、札幌（メディアアーツ）
ビルバオ（デザイン）、ハイデルベルグ（文学）、リンツ（メディアアーツ）など



Creative Cities Network

20世紀の工業経済から21世紀創造経済へ

	工業経済	創造経済
生産システム	大規模生産 トップダウン	フレキシブル生産 ボトムアップ
消費	非個性的大量消費	個性的文化的消費
流通・メディア	大量流通 マスメディア	ネットワーク ソーシャルメディア
優位性	資産・土地・エネルギー	クリエイティブ人材 知恵知識・文化芸術
都市の形	産業都市	創造都市

早すぎた創造都市・大阪の再創造

➤ 難波津

四天王寺の多様な機能

敬田院・施薬院・療病院・悲田院

➤ 寺内町としての大坂の発展

町衆による都市経営

文楽など洗練された都市文化

クリエイティブクラスが集まる

都市・大坂



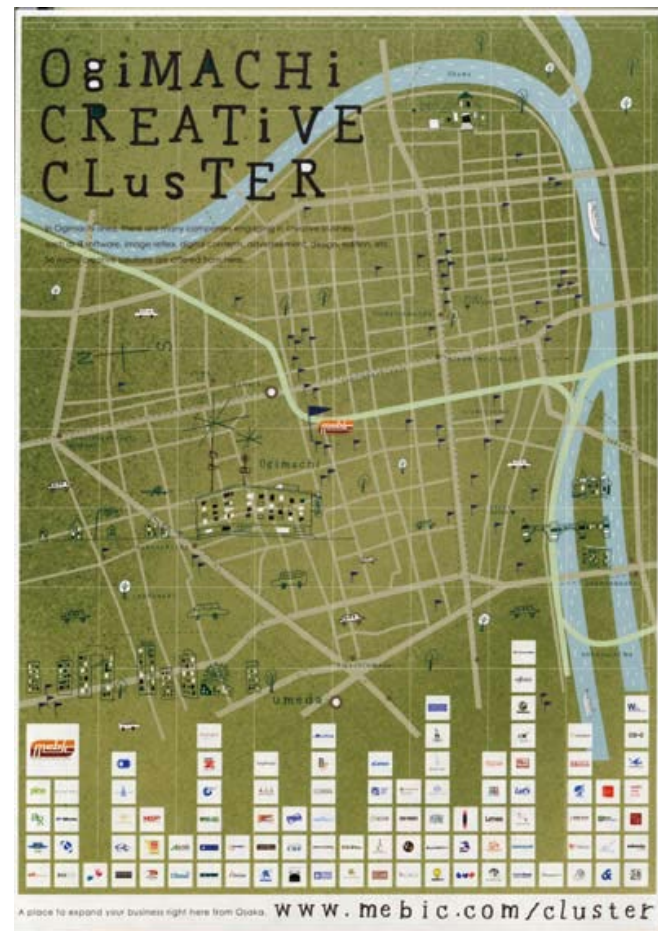
草の根からの大阪再創造の苦悩と挑戦

- 企業メセナの衰退 近鉄劇場、サントリーミュージアム
扇町ミュージアムスクエアの閉鎖
- アートサポート関西の設立と期待
- NPOによる新しい文化創造支援活動
フェスティバルゲート跡地の活用と頓挫
精華小劇場の廃止
應典院シアターの奮闘



扇町クリエイティブクラスター運動

扇町・南森町界隈に広告、印刷、出版、放送、IT関連などクリエイティブ関連企業が2,000社以上も集積し、クリエイターの数は一万人。メビック扇町は、この街で活躍するクリエイターたちが互いに知り合い、ミーティングやセミナー、交流会などの活動を通じて、顔の見える関係を築くための新しいコミュニティづくりに取り組んでいる。現在の登録社数は、1036社。



アーツカウンシル大阪への提言 2007.1

關淳一市政が進めていた創造都市戦略に文化芸術の視点を強めるために**アーツカウンシル大阪の設立を提言**

第2次大戦後福祉国家の再出発にあたり、イギリスなどで採用された制度であり、「教育委員会の芸術版」

「アームスレングス原則」行政は一定の距離を保って、芸術表現の多様性・独立性を認めつつ、文化政策の専門家や芸術家の代表による文化予算の配分方式によって、財政的に支援するものとされる。

アーツカウンシル東京(2012年設立)は、東京都に政策提言を行うほか、

①支援事業として、音楽、演劇、舞踊、伝統芸能、美術・映像等の分野における、企画力の高い公演・展示活動を行う団体に対する助成、②パイロット事業として、多様な芸術文化活動を支える人材の育成事業等を行う。

「人に優しい、人間本位の包摂型創造都市・大阪へ」

第1に、都市大阪に固有の文化伝統や自然環境を現代的視点から読み解き、再評価し、再編集して、独自のコンセプトを確立し、政策目標を立てることが重要である。

第2に、都市の歴史や伝統に着目するのみならず、現代アートの持つ創造性を重視して、時には、伝統と先端との「衝突」を起こして、絶えず大阪文化を革新していくことが重要である。

第3に、行政や一部の大企業に依存した文化計画ではなく、芸術家やNPO、大学や広範な市民など多様な主体との対話による文化創造を軸に創造都市づくりを進めることが重要である。

第4に、文化計画を産業振興や環境保全、都市計画と融合させて進めることが重要であり、同時にアームズレングスの原則にしたがってアーツカウンシル大阪を再構築することが緊要である。

「東アジア文化都市」と創造的アジアの形成

2012年5月、日中韓文化大臣フォーラムにおいて
「東アジア文化都市一共生・創造・調和」事業を決定。

- ①東アジア域内の相互理解と連帯感の形成の促進
- ②東アジアの多様な文化の国際発信力の強化
- ③都市の文化的特徴を活かして、文化芸術・創造産業・
観光の振興を図り、継続的に発展する。

2014年は横浜市、泉州市、光州市が選ばれ事業を展開。
「東アジア意識、文化的融合、相互的鑑賞」の精神で、
「東アジア芸術祭」「東アジア共生フォーラム」を開催。

2016年は奈良市、2017年は京都市に内定

このような多層的ネットワークが広がる中で、創造的アジア
*Creative Asia*が生まれることになろう。